

美しく自然豊かな海をいつまでも ～海洋プラスチックごみ問題～



海岸は、今・・・

愛知県の海岸には、ペットボトルなどのプラスチックごみが漂着しており、景観の悪化や生態系への影響などが懸念されています。 佐久島の海岸（西尾市）



増加する海洋プラスチックごみ

山などに降った雨は、川となり、街を流れて、海に戻ります。近年、この水の流れの中に「街中でポイ捨てされたペットボトル」など、様々なプラスチックごみが、川の流れを通じ海に流れ込むことなどにより、海洋プラスチックごみが増えています。



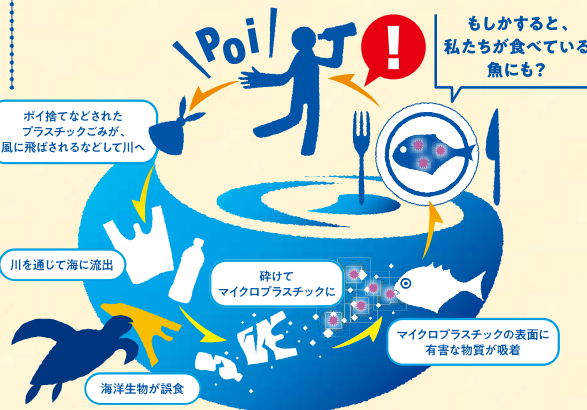
微細化するプラスチック

海を漂うプラスチックごみは、紫外線による劣化などにより砕け、大きさが5mm以下のプラスチック、いわゆるマイクロプラスチックに変化します。これらは、微細なため、環境中から回収することが大変困難です。



海洋プラスチックごみによる生態系への影響

ウミガメなどの海洋生物が、プラスチックごみを誤食し、また絡まるなどして、衰弱し、死に至る事例が確認されています。また、マイクロプラスチックは海の中で、有害な物質を吸着することがあります。それを小魚などが誤食し、その小魚を大きな魚が捕食するなど、食物連鎖を通じた有害な物質の人への影響が懸念されています。



海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、私たちができること

ごみのポイ捨てをしない、ごみを持ち帰る。



3Rを心がけた行動で、ごみの発生を減らす。



海への影響が少ない製品を使用する。



海に関心を持ち、清掃活動へ参加する。

